

## || 大泉町の現状と思題

## 1 人口等の動向

#### (1)人口動態

#### ①人口等の推移

本町の人口推移をみると、微増傾向となっています。

また、高齢者人口割合(65歳以上)は上昇を続けており、令和2年には22.5%と、約5人に1人が65歳以上となっています。

一方、年少人口割合(15歳未満)は平成27年で13.5%だったものが、令和2年には12.7%とやや減少しています。

#### 人口等の推移

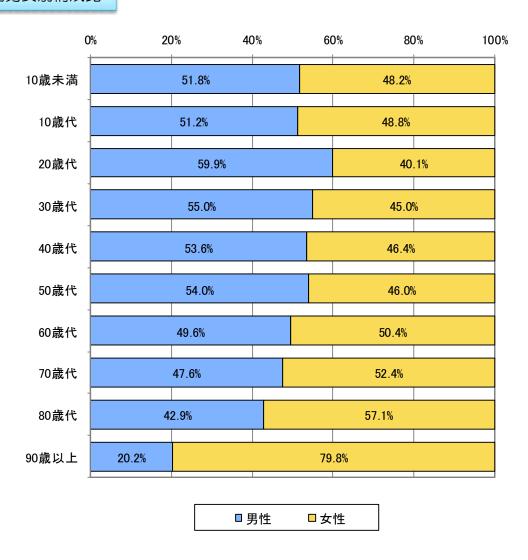


※資料:住民基本台帳(各年4月1日)

## ②世代別の男女構成比

世代別の男女構成比をみると、50歳代までは男性の割合が高いものの、60歳代以上では女性の割合が男性の割合を上回っており、世代が高くなるにつれて女性の割合が高くなっています。

#### 年代別男女別構成比

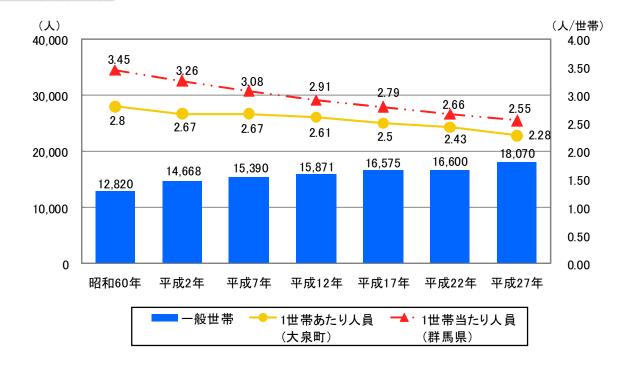


※資料:住民基本台帳(令和2年4月1日)

#### ③世帯数及び1世帯あたり人員の推移

本町における一般世帯数は増加傾向にありますが、1世帯あたり人員は県平均と同様に減少傾向にあり、平成27年時点で2.28人と、世帯の小規模化(単身世帯など)が進行しています。

#### 世帯数等の推移



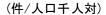
- ■一般世帯とは、次のものをいいます。
  - 1) 住居と生計を共にしている人の集まり又は一戸を構えて住んでいる単身者 ただし、これらの世帯と住居を共にする単身の住み込みの雇人については、人数に関係なく雇主の 世帯に含めています。
  - 2) 上記の世帯と住居を共にし、別に生計を維持している間借りの単身者又は下宿屋などに下宿している単身者
  - 3) 会社・団体・商店・官公庁などの寄宿舎、独身寮などに居住している単身者

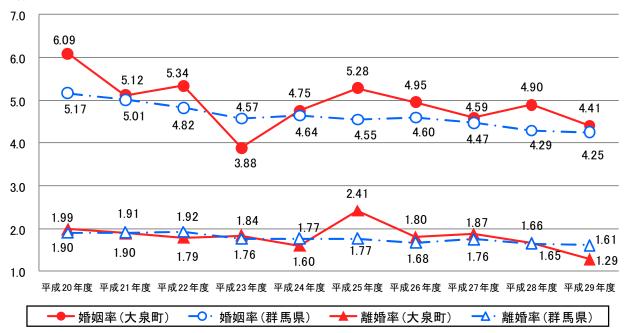
#### (2)婚姻・離婚の状況

## ①婚姻率・離婚率の推移の状況

本町の婚姻率は県平均を概ね上回っていますが、平成23年は大きく減少しました。また、離婚率は概ね県平均と同様でしたが、平成25年では県平均を大きく上回り、2.41件/人口千人対となっています。

#### 婚姻率・離婚率の推移



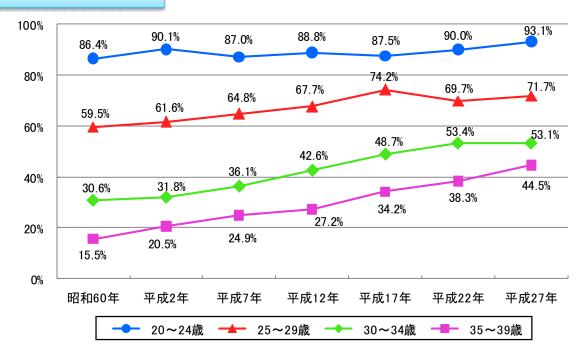


※資料:群馬県健康福祉統計

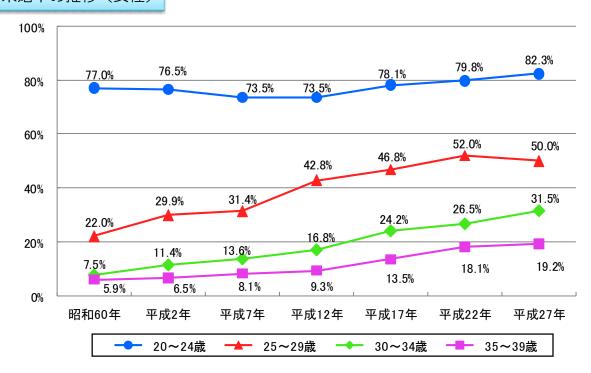
## ②未婚率の推移

本町の年齢別未婚率の推移をみると、25歳以上での上昇は依然として続いており、非婚化・晩婚化の進行が伺えます。

#### 未婚率の推移 (男性)



#### 未婚率の推移(女性)



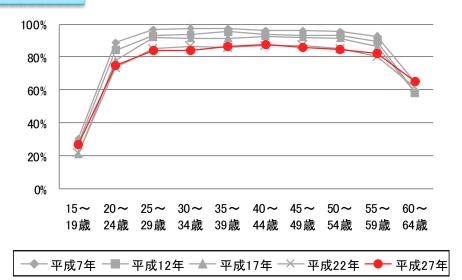
#### (3) 就業状況等の推移

#### ①男女別就業状況

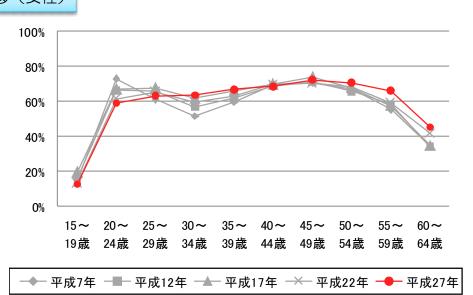
男性の就業率は、社会経済の悪化に伴い年ごとに低下していますが、反対に女性では、 特に25歳以上で就業率の上昇がみられ、働く女性の割合が増えたことを示しています。

また、女性の就業率を年齢に沿ってみていくと、いわゆる「M字型曲線\*」を示しており、30歳前後で結婚や出産のため離職する傾向があることがわかります。しかし、平成17年、平成22年と30歳前後でのカーブが徐々に緩やかになっており、平成27年ではかなり改善され、女性の就業率が高まっています。

#### 就業率の推移 (男性)



#### 就業率の推移(女性)

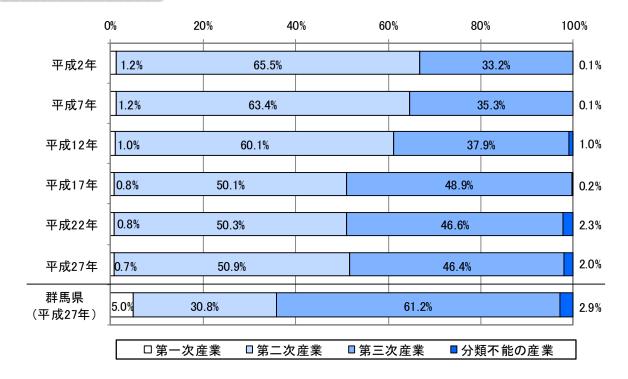


#### ②産業別就業人口の推移

産業別就業者の割合の推移をみると、第一次産業及び第二次産業の減少がみられましたが、平成27年では第二次産業が微増しています。また、第三次産業の増加傾向がみられましたが、平成27年では微減しています。

平成27年度では、全就業者の半数以上が第二次産業に従事しており、県平均と比較しても高い割合となっています。

#### 産業別就業率の推移



#### ③産業別女性の就業人口

平成27年の産業別(大分類)就業状況をみると、就業者全体では製造業に従事する人の割合が46.6%を占め最も多く、次いで卸売業・小売業(11.6%)、医療・福祉(7.8%)と続きます。

一方、女性の産業別就業状況をみると、業種ごとの就業者に占める女性の割合は「漁業」「卸売業、小売業」、「金融業、保険業」や「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業」、「教育、学習支援業」、「医療、福祉」、「複合サービス業」で50%を超えています。こうした業種では、就業者の半数以上を女性が占め、女性労働力が重要なポイントを占めていることがわかります。

#### 産業別女性の就業人口(平成27年)

人口区分産業区分		全就業人口		女性就業人口			
		人数 (人) (A)	全就業 人口に 占める 割合 (%) (A/AC)	人数 (人) (B)	全就業 人口に 占める 割合 (%) (B/AC)	女性就業人 ロに 占める 割合(%) (B/BC)	業種別 総数のる 割合 (%) (B/A)
総数(C)		20,686	100.0	7,887	38.13	100.0	38.1
第一次	農業	144	0.7	38	0.18	0.5	26.4
	林業	1	0.0	0	0.00	0.0	0.0
	漁業	1	0.0	1	0.00	0.0	100.0
第二次	鉱業、採石業、砂利採取業	2	0.0	0	0.00	0.0	0.0
	建設業	886	4.3	144	0.70	1.8	16.3
火	製造業	9,650	46.6	2,540	12.28	32.2	26.3
	電気・ガス・熱供給・水道業	53	0.3	5	0.02	0.1	9.4
	情報通信業	210	1.0	44	0.21	0.6	21.0
	運輸業、郵便業	1,106	5.3	293	1.42	3.7	26.5
	卸売業、小売業	2,395	11.6	1,293	6.25	16.4	54.0
	金融業、保険業	238	1.2	150	0.73	1.9	63.0
	不動産業、物品賃貸業	199	1.0	89	0.43	1.1	44.7
第	学術研究、専門・技術サービス業	315	1.5	92	0.44	1.2	29.2
次	宿泊業、飲食サービス業	816	3.9	525	2.54	6.7	64.3
	生活関連サービス業、娯楽業	554	2.7	345	1.67	4.4	62.3
	教育、学習支援業	604	2.9	387	1.87	4.9	64.1
	医療、福祉	1,612	7.8	1,268	6.13	16.1	78.7
	複合サービス事業	96	0.5	50	0.24	0.6	52.1
	サービス業(他に分類されないもの)	1,026	5.0	345	1.67	4.4	33.6
	公務(他に分類されるものを除く)	370	1.8	137	0.66	1.7	37.0
	その他	409	2.0	141	0.68	1.8	34.5

※資料:平成27年国勢調査

※網掛けの業種は、業種別の総数に占める女性の割合が50%以上の業種

## 2 住民意識調査結果

#### 調査結果概要

#### (1)調査の目的

「第四次大泉町男女共同参画推進計画」を策定するにあたり、町民の男女共同参画に 関する意識の把握及び町が取組むべき施策の基礎資料とするため、住民意識調査を実施 しました。

#### (2)調査実施期間

令和2年2月13日(木)~令和2年3月6日(金)

#### (3)調査実施対象者

町内在住の18歳以上の方を無作為抽出。合計1,200名

#### (4)調査票の配布・回収方法

返信用封筒を同封して発送・郵送回収

#### (5)調査票の回収数及び有効回収率

対象	配布数	回収数	回収率
町民	1,200	391	32.6%

※有効回収数 391名 (男性 172名 女性 216名 その他 3名)

#### (6) その他

- ・比率はすべて百分率(%)で表し、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しました。このため、合計比率が100%に満たない場合や超える場合があります。
- ・質問が複数回答となる問は、1人の回答者が2つ以上の回答をしてもよい質問です。 このため、合計比率が100%を超える場合があります。

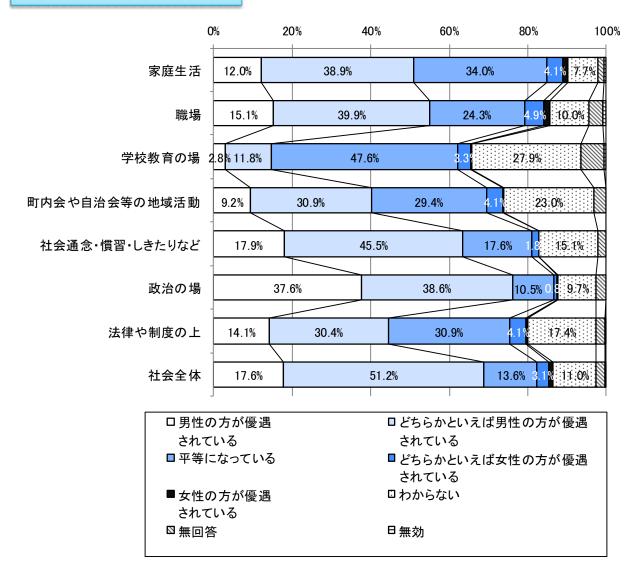
## 3 調査結果抜粋

#### ①男女平等に関する意識について

#### あなたは、次のような分野で男女は平等になっていると思いますか。

「男女平等になっている」と回答した方が最も多い項目は「学校教育の場」の47.6%となっています。また、「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した方が最も多い項目は「政治の場」の76.2%となっており、続いて「社会全体」68.8%、「社会通念・慣習・しきたりなど」63.4%となっています。一方、「女性の方が優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した方は各項目で低い割合となっています。

#### 分野ごとの男女平等について

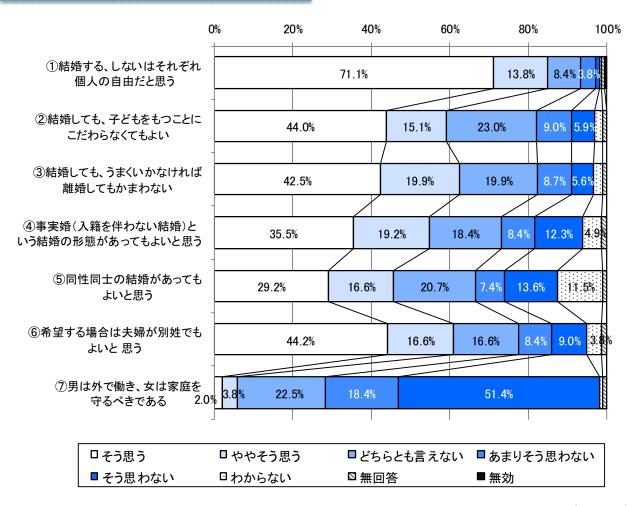


#### ② 結婚や家庭生活について

## あなたは、結婚や家庭生活に関する次の考え方について、どう思いますか。

「① 結婚する、しないはそれぞれ個人の自由だと思う」、「② 結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてもよい」、「③ 結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない」、「④ 事実婚(入籍を伴わない結婚)という結婚の形態があってもよいと思う」、「⑤ 同性同士の結婚があってもよいと思う」、「⑥ 希望する場合は夫婦が別姓でもよいと思う」の項目において、一番割合が高かったのは「そう思う」の回答で、それぞれ71.1%、44.0%、42.5%、35.5%、29.2%、44.2%となっています。「⑦ 男は外で働き、女は家庭を守るべきである」の項目に「そう思う」、「ややそう思う」と回答した方は5.8%となっています。

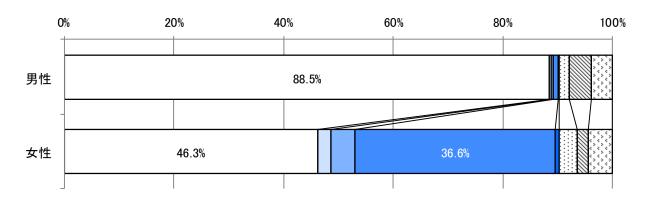
#### 結婚や家庭生活に関する考え方について



## あなたは、男女が職業を持つことについて、どう思いますか。

男性の場合、「結婚や出産、育児にかかわらず職業を持ち続けた方がよい」と回答した方が最も多く、88.5%となっています。女性の場合、「結婚や出産、育児にかかわらず職業を持ち続けた方がよい」と回答した方が最も多く46.3%、続いて「子どもができたら職業をやめ、手が離れたら再び持つ方がよい」の36.6%となっています。

#### 男女が職業を持つことについて



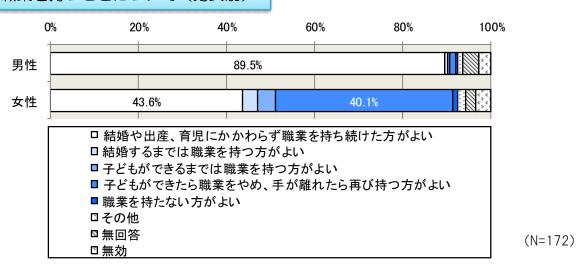
- □ 結婚や出産、育児にかかわらず職業を持ち続けた方がよい
- □結婚するまでは職業を持つ方がよい
- ■子どもができるまでは職業を持つ方がよい
- 子どもができたら職業をやめ、手が離れたら再び持つ方がよい
- ■職業を持たない方がよい
- □その他
- ☑ 無回答
- □無効

#### 【男女別集計】

#### ①男性の場合

「男性の場合」では、多くの方が男性は「結婚や出産、育児にかかわらず職業を持ち続けた方がよい」と回答しています。一方、女性については「結婚や出産、育児にかかわらず職業を持ち続けた方がよい」と「子どもができたら職業をやめ、手が離れたら再び持つ方がよい」と回答した方がそれぞれ40%台となっています。

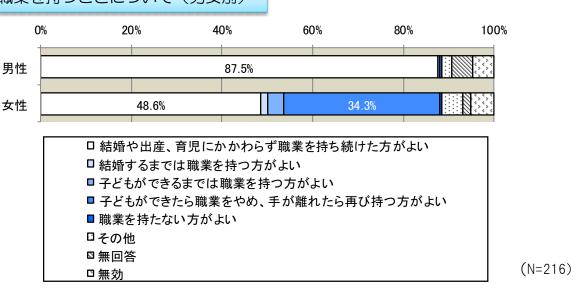
#### 男性が職業を持つことについて(男女別)



#### ②女性の場合

「女性の場合」では、男性は「結婚や出産、育児にかかわらず職業を持ち続けた方がよい」と回答した方が多くなっています。女性は、「結婚や出産、育児にかかわらず職業を持ち続けた方がよい」が「子どもができたら職業をやめ、手が離れたら再び持つ方がよい」と回答した方よりやや割合が高くなっています。

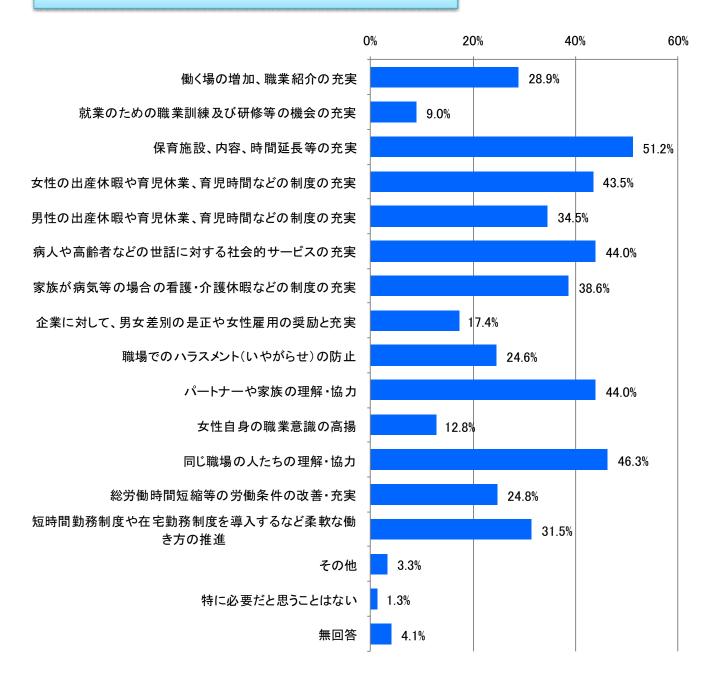
#### 女性が職業を持つことについて(男女別)



#### 男女がともに仕事も家庭も担っていくために必要なことは何だと思いますか。

「保育施設、内容、時間延長等の充実」と回答した方が51.2%と最も多く、続いて「同じ職場の人たちの理解・協力」の46.3%となっています。

#### 男女がともに仕事も家庭も担っていくために必要なこと

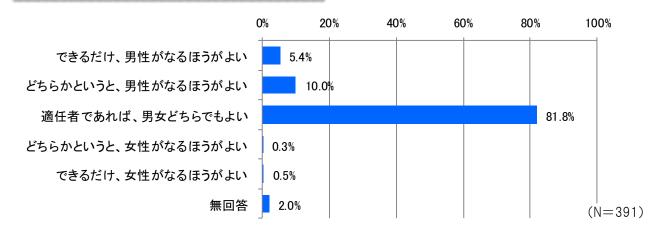


#### ④社会活動・地域活動について

## あなたは、自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、地域活動にかかわる 役職の性別についてどう思いますか。

「適任者であれば、男女どちらでもよい」と回答した方がほとんどで、81.8%となっています。

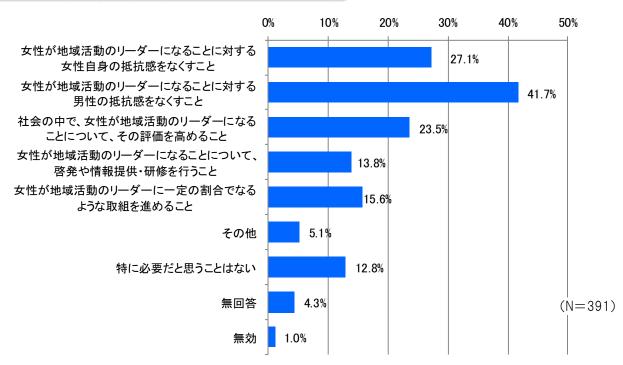
#### 地域活動にかかわる役職の性別について



## あなたは、自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、女性が地域活動の リーダーとなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」と回答した方が41.7%と最も多く、「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が次に多く、27.1%となっています。

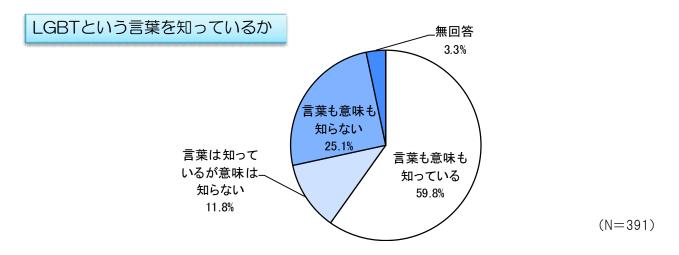
#### 女性が地域活動のリーダーとなることについて



#### あなたは、「LGBT\*」という言葉を知っていますか。

「言葉も意味も知っている」と回答した方が最も多く、59.8%となっています。

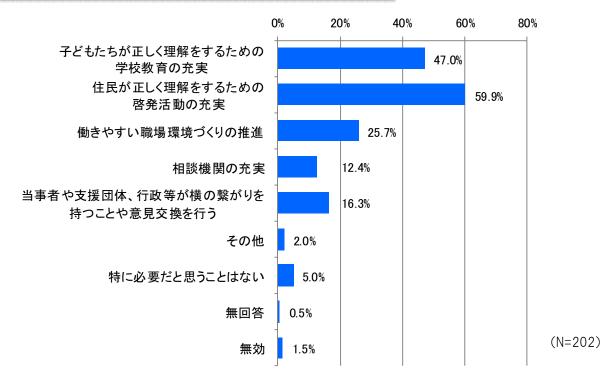
一方、「言葉も意味も知らない」と回答した方は25.1%となっています。



# あなたは、LGBTなどの性的少数者の人々が生活しやすくなるためにどのようなことが必要だと思いますか。

「住民が正しく理解をするための啓発活動の充実」と回答した方が最も多く、59.9%となっています。続いて、「子どもたちが正しく理解をするための学校教育の充実」の47.0%、「働きやすい職場環境づくりの推進」の25.7%となっています。

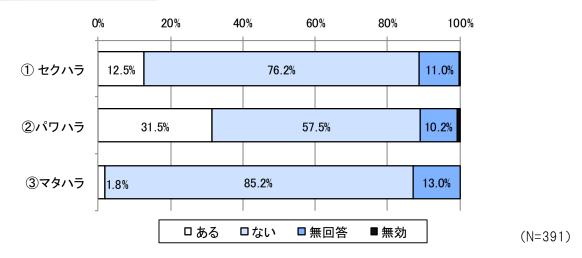
#### 性的少数者の人々が生活しやすくなるために必要なこと



## あなたは、次のようなハラスメントを経験したり、身近で見たり聞いたりしたことが ありますか。

ハラスメントを受けた経験について、「ある」と回答した方が一番多かった項目は「パワハラ\*」の31.5%となっています。

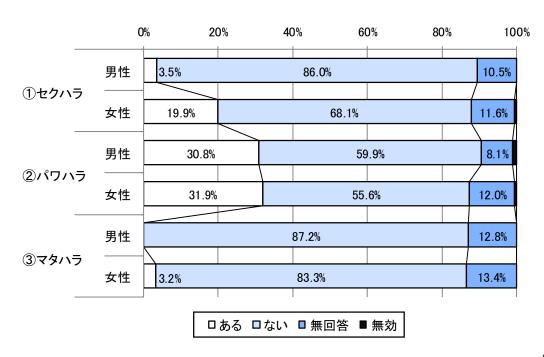
#### ハラスメントを受けた経験



#### 【男女別集計】

セクハラ\*、マタハラ\*は男性よりも女性の方が受けたことが「ある」という回答が多く、 パワハラは男女いずれも30%程度の方が受けたことが「ある」と回答しています。

#### ハラスメントを受けた経験(男女別)



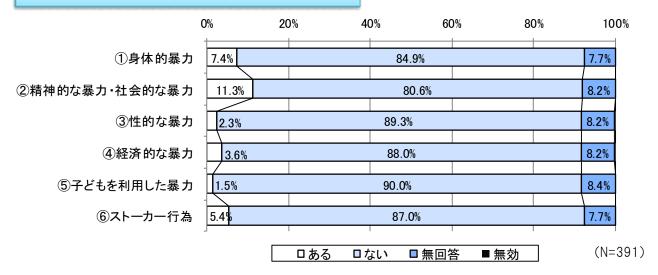
(男性N=172)

(女性N=216)

## あなたは、配偶者や恋人など親密な関係にある、またはあった者からふるわれる暴力 (ドメスティック・バイオレンス (DV\*)) を受けた経験がありますか。

ドメスティック・バイオレンスを受けた経験について、「ある」と回答した方が一番多かった項目は「精神的な暴力・社会的な暴力」の11.3%となっています。次に多かった項目は「身体的暴力」7.4%、ストーカー行為5.4%となっています。

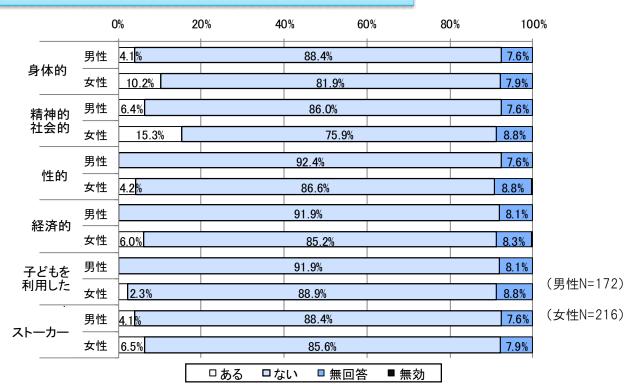
#### ドメスティック・バイオレンスを受けた経験



#### 【男女別集計】

すべてのハラスメントにおいて、受けた経験が「ある」と回答した方は女性が多くなっています。最も多かった項目は男女ともに「精神的・社会的な暴力」となっています。

## ドメスティック・バイオレンスを受けた経験(男女別)

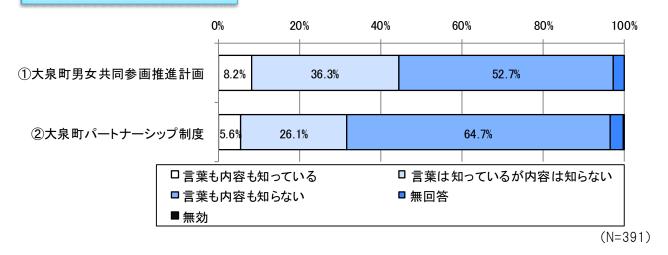


#### ⑥男女共同参画社会について

#### あなたは、次にあげる計画・制度について知っていますか。

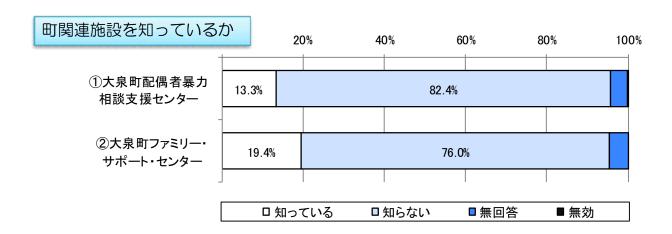
「①大泉町男女共同参画推進計画」、「②大泉町パートナーシップ制度\*」両項目とも「言葉も内容も知らない」と回答した方が多く、それぞれ、52.7%、64.7%となっています。

#### 計画・制度を知っているか



#### あなたは、次にあげる町関連施設について知っていますか。

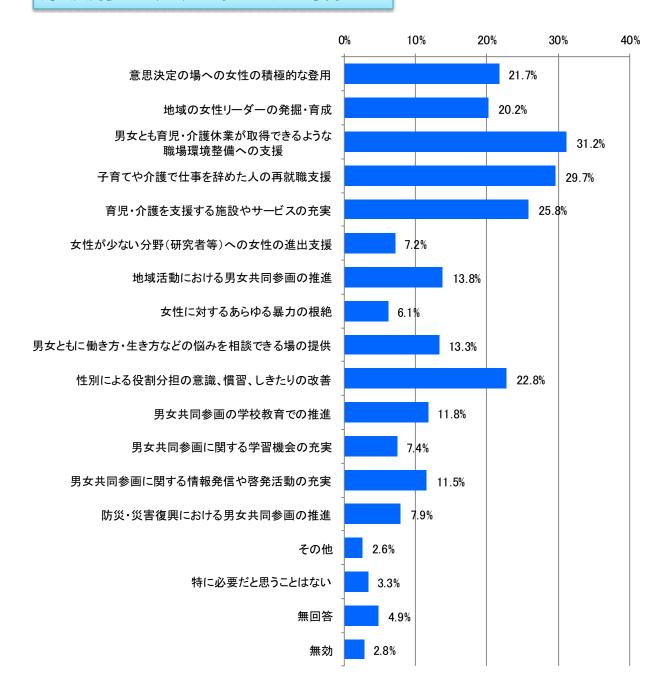
「①大泉町配偶者暴力相談支援センター\*」、「②大泉町ファミリー・サポート・センター\*」 両項目とも「知らない」と回答した方が多く、それぞれ、82.4%、76.0%となっています。



#### 今後、大泉町で男女共同参画を推進するために、どのようなことが必要だと思いますか。

「男女とも育児・介護休業が取得できるような職場環境整備への支援」と回答した方が3 1.2%と最も多く、続いて、「子育てや介護で仕事を辞めた人の再就職支援」の29.7%、「育 児・介護を支援する施設やサービスの充実」の25.8%となっています。

#### 男女共同参画の社会づくりのために必要なこと



## 4 住民意識調査からの課題

※全体集計は、回答者属性において、「性別:その他(または答えたくない)」と回答した3名、「年齢:無回答」 の2名を含みます。したがって、男女別、年代別集計の回答者数は全体の回答者数とずれがあります。

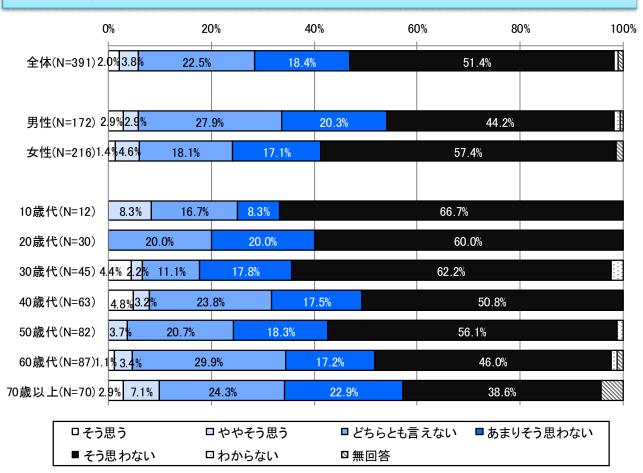
#### ①「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という考え方について

「そう思わない」と回答した方が51.4%と最も多く、「あまりそう思わない」という回答と合わせると半数以上(69.8%)となり、「そう思う」「ややそう思う」という回答を合わせた割合(5.8%)を大きく上回っています。

このことから、回答者の半数以上の方が、「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」 という考え方を否定していることがわかります。

この回答を性別・年齢別に見ると、性別では、男性よりも女性の方が否定的な意見が多く、年齢では、30歳代、20歳代、50歳代の順で否定的な意見が多くなっています。また、すべての年齢において過半数以上の方がこの考え方に否定的な意見を示しており、全体的に男女共同参画の意識が根付いているといえます。

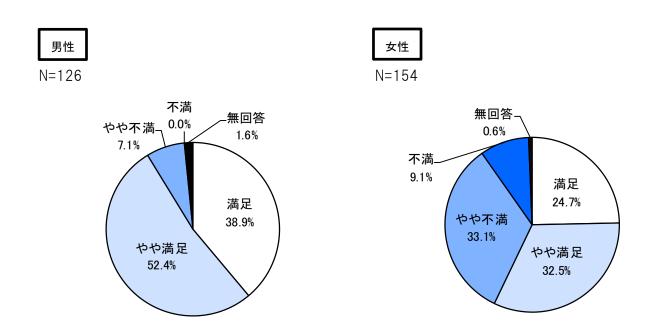
#### 「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という考え方について(男女別、年代別)



## ②家庭での役割分担について

配偶者(事実婚を含む)・パートナーのいる方に対し、家庭生活における今の役割分担についてどう思うかという問いにおいては、男性の場合「満足」、「やや満足」と回答した方は91.3%いるのに対し、女性の場合「満足」、「やや満足」と回答した方は57.2%と大きな差があります。

## 家庭生活における今の役割分担について(男女別)

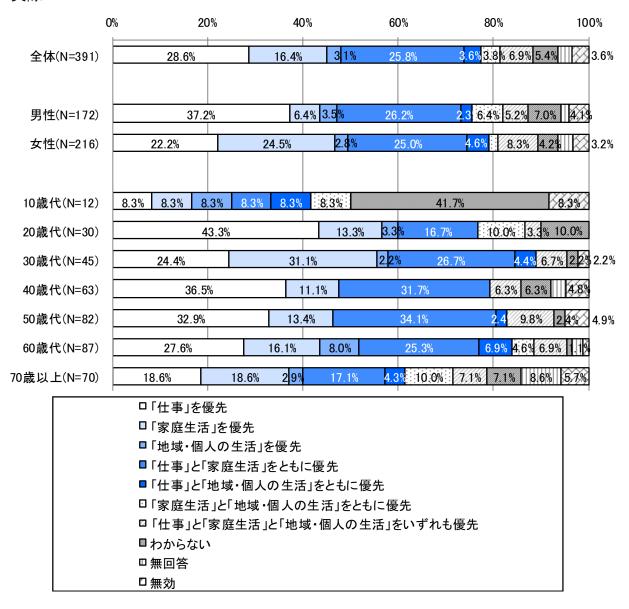


#### ③働き方について

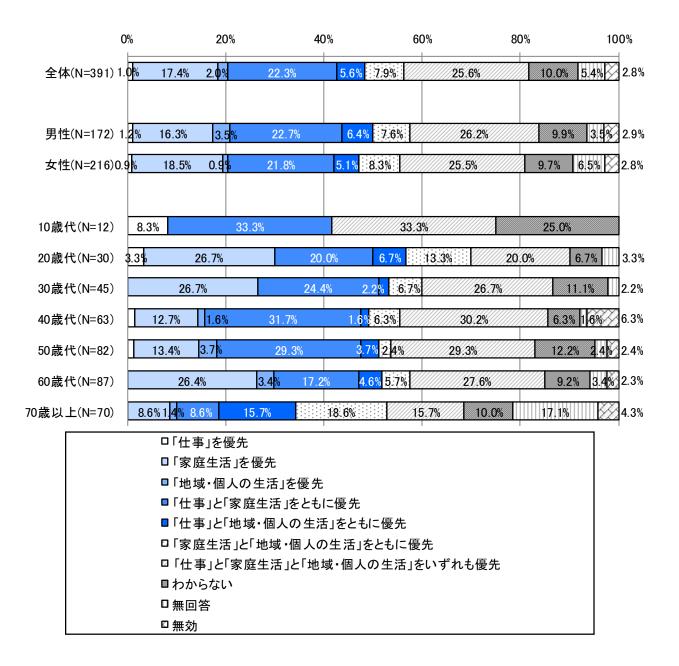
日常生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度について、あなたの実際の生活と理想の生活に最も近いものはどれかという問いに対して、「実際の生活」では男性の場合、「『仕事』を優先」と回答した方が37.2%と最も多く、女性の場合、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が25.0%と最も多くなっています。一方、「理想の生活」では、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をいずれも優先」と回答した方が男性26.2%、女性25.5%ともに最も多く、ワーク・ライフ・バランス\*を考慮した生活を住民は望んでいるということが伺えます。

#### 日常生活における優先度(男女別、年代別)

#### ■実際



#### ■理想



#### ④地域活動について

自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、地域活動にかかわる役職の性別について、「適任者であれば、男女どちらでもよい」と回答した方が男女ともに最も多く、年齢別に見ても7割以上の方がそのように回答しています。

#### 地域活動にかかわる役職の性別について (男女別、年代別)



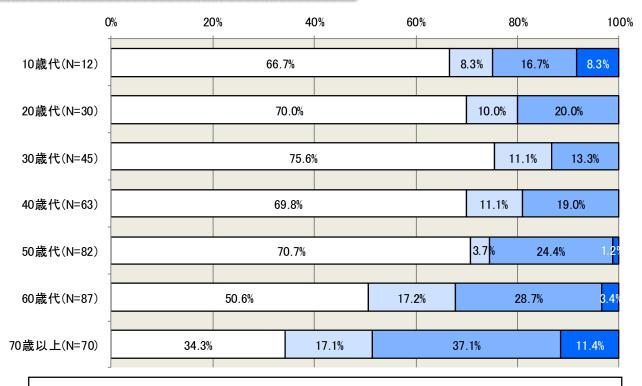
- □できるだけ、男性がなるほうがよい
- □どちらかというと、男性がなるほうがよい
- □ 適任者であれば、男女どちらでもよい
- ■どちらかというと、女性がなるほうがよい
- ■できるだけ、女性がなるほうがよい
- □無回答

## ⑤多様性について

「LGBT」という言葉を知っているかという問いに対し、「言葉も意味も知っている」と回答した方が一番多かったのは30歳代でした。40歳代以上になると、「言葉も意味も知らない」と回答した方の割合が次第に高くなっており、住民への啓発活動の充実が必要です。

また、若年層についても、30歳代と比べると、「言葉も意味も知らない」と回答した方が多く、子どもたちが正しく理解するための学校教育の充実が重要です。

#### 「LGBT」という言葉を知っているか(年代別)



□言葉も意味も知っている □言葉は知っているが意味は知らない □言葉も意味も知らない □無回答

## ⑥ドメスティック・バイオレンス(DV)について

DVを受けた経験について、一番多かったのは男女ともに「精神的な暴力・社会的な暴力」、 続いて「身体的暴力」でした。また、すべての項目において、男性より女性の方が受けた 経験が「ある」と回答した方が多くなっています。

## 配偶者等からの暴力(ドメスティック・バイオレンス(DV))を受けた経験(男女別)



男性(N=172)、女性(N=216)

## 5 平成27年実施アンケートとの比較

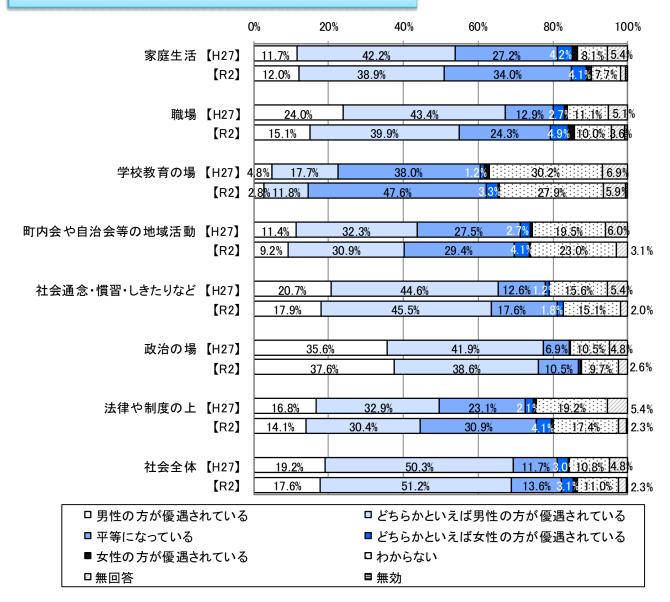
#### ①男女平等に関する意識について

平成27年と比較すると、すべての項目において今回調査は「平等となっている」と回答 した方の割合が多くなっています。

各項目で比較すると、特に職場では「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば 男性の方が優遇されている」と回答した方の割合が大きく減り、「平等になっている」の割 合が増えています。

「社会通念・慣習・しきたりなど」、「政治の場」、「社会全体」では、平成27年よりも改善してはいますが、いずれも「平等になっている」と回答した方が少数であり、これらの場での男女共同参画の取組が重要です。

#### 分野ごとの男女平等について(平成27年、令和2年)

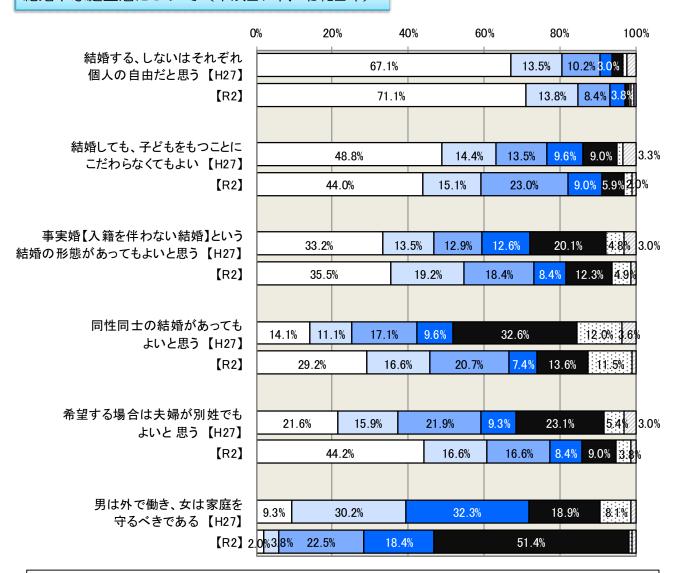


#### ②結婚や家庭生活について

各項目で比較すると、「結婚する、しないはそれぞれ個人の自由だと思う」、「事実婚【入籍を伴わない結婚】という結婚の形態があってもよいと思う」、「同性同士の結婚があってもよいと思う」、「希望する場合は夫婦が別姓でもよいと思う」が平成27年に比べ「そう思う」、「ややそう思う」という回答が多くなっています。

特に「同性同士の結婚があってもよいと思う」、「希望する場合は夫婦が別姓でもよいと思う」については「そう思う」と回答した方が大幅に増えており、多様な家族形態に対する 住民の理解が深まってきていることが伺えます。

#### 結婚や家庭生活について(平成27年、令和2年)

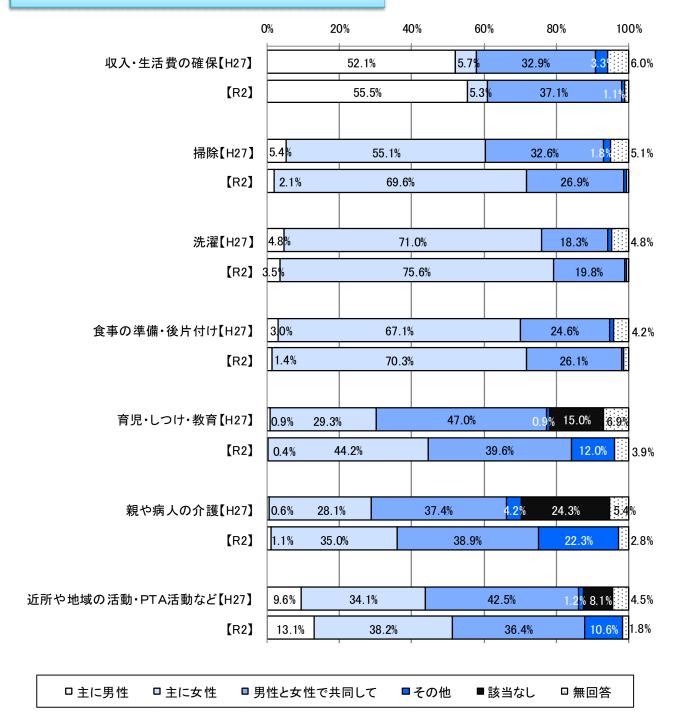


ロそう思う □ややそう思う □どちらとも言えない □あまりそう思わない ■そう思わない □わからない □無回答 □無効

#### ③家庭での役割について

各項目を比較すると、「掃除」、「育児・しつけ・教育」は平成27年に比べて今回調査は「主に女性」という回答が増加し、「主に男性」、「男性と女性で共同して」の回答が減少しており、女性の負担が増えています。

#### 結婚や家庭生活について(平成27年、令和2年)

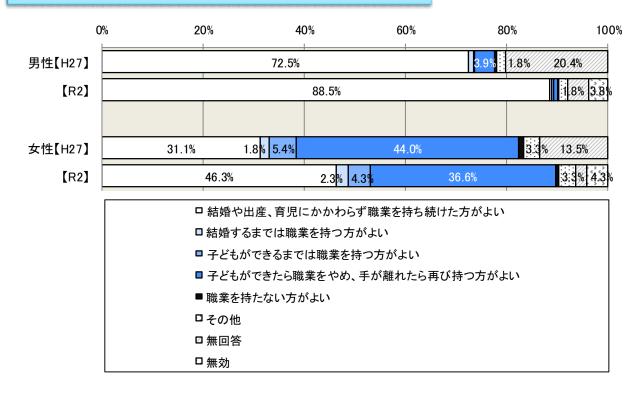


## ④男女が職業を持つことについて

男女ともに「結婚や出産、育児にかかわらず職業を持ち続けた方がよい」という回答が増加しています。また、「子どもができたら職業をやめ、手が離れたら再び持つ方がよい」という回答は男女ともに減少しています。

女性が妊娠・出産しても働き続けられる社会の構築が重要となっています。

#### 男女が職業を持つことについて(平成27年、令和2年)



#### ⑤男女がともに仕事も家庭も担っていくために必要なこと

平成27年と今回調査の差が最も大きいのは「男性の出産休暇や育児休暇、育児時間などの制度の充実」となっており、9.1ポイントの増加となっています。続いて「同じ職場の人たちの理解・協力」8.3ポイントの増加、「保育施設、内容、時間延長等の充実」8.1ポイントの増加となっています。

女性だけでなく、男性も育児に参画できるような休暇制度や、柔軟な保育体制が必要とされており、子育ての負担を減らすことにつながる支援や、子育て世代に対する理解や協力が重要です。

#### 男女がともに仕事も家庭も担っていくために必要なこと(平成27年、令和2年)

